

前回会議（7月10日 点検・評価報告書（原案））からの修正箇所

1 データの更新によるもの

- (1) 第1章 P23「11 行政改革への取組」(3) 民間開放や省力化の推進について
指定管理者制度の導入状況の表中、令和5年度における管理の目標達成度の状況欄の
文学館、釧路芸術館、北方民族博物館の評価が確定したため、更新
- (2) 第1章 P32「16 令和6年（2024年）3月実施 公立高等学校等入学者選抜実施状況」
 - (1) 出願者の概要、(2) 課程・学科別出願者の状況のデータが確定したため、更新
- (3) 資料編 P112「2 高等学校への生徒の就学状況」
 - (3) 公立高等学校等入学者選抜状況のデータが確定したため、更新

2 指標の実績値の確定に伴い総合評価が確定したもの

- (1) 施策項目2 幼児教育の充実（P40～42）
4段目の指標の実績値が確定したため、「定量評価」及び「総合評価」の判定を記載
- (2) 施策項目4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成（高校）（P46～48）
3段目の指標の実績値が確定したため、「定量評価」及び「総合評価」の判定を記載
- (3) 施策項目17 働き方改革の推進（P85～87）
1段目の指標の実績値が確定したため、「定量評価」及び「総合評価」の判定を記載
- (4) 上記（1）～（3）の実績値の確定に伴う推進指標管内別内訳（P103～110）の更新

3 教育委員会、教育推進会議の意見等を踏まえて修正を行ったもの【参考資料参照】

- (1) 第1章 17 北海道総体2023の記録（P33）
大会成功に向けた高校生の活動に加え、高等支援学校生徒の活動について加筆
- (2) 施策項目3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成（小・中学校）（P43～45）
3・4段目の指標に関し、基準値よりも実績値が低下した要因等を分析欄に加筆
- (3) 施策項目5 特別支援教育の推進（P49～51）
1段目の指標に関し、個別の支援計画の作成率に関わる状況について分析欄を修正
- (4) 施策項目14 いじめ防止の取組の充実（P76～78）
1段目の指標に関し、基準値よりも実績値が低下した状況について分析欄を修正
- (5) 施策項目15 不登校児童生徒への支援の充実（P79～81）
校内教育支援センターの設置に関わる支援について、取組の柱（3）に加筆
- (6) 施策項目16 教員の養成・採用・研修の一体的な改革の推進（P82～84）
教員の確保の状況等に鑑み、定量・定性・総合の各評価内容を見直し
- (7) 施策項目18 学びのセーフティネットの構築（P88～90）
登校することができない子どもへの支援に関する記述を次年度の取組に加筆

【参考資料】「3 教育委員会、教育推進会議の意見等を踏まえて修正を行ったもの」対照表

施策項目等	原 案	最 終 案
<p>(1) 第1章 17 北海道総体 の記録 (P33)</p>	<p>インターハイは、競技に参加する生徒と大会成功に向けて競技会場の運営補助や広報活動などを行う生徒との両輪で行われており、北海道大会では、総合開会式に出演者や補助者として参加した高校生や各競技種目の運営に当たった高校生は約1万1千人に<u>のぼり</u>、<u>全国から訪れた多くの方々を温かいおもてなしの心でお迎えするなど</u>～</p>	<p>インターハイは、競技に参加する生徒と大会成功に向けて競技会場の運営補助や広報活動などを行う生徒との両輪で行われており、北海道大会では、総合開会式に出演者や補助者として参加した高校生や各競技種目の運営に当たった高校生は約1万1千人に<u>のぼり</u><u>ます</u>。<u>高等支援学校生徒による木製ベンチ製作等といった活動も含めて</u>、<u>全国から訪れた多くの方々を温かいおもてなしの心でお迎えするなど</u>～</p>
<p>(2) 施策項目3 指標3・4 段目分析欄 (P43)</p>	<p>～全国平均を上回る教科はないものの、平均正答率の全国平均との差が全ての教科で2.0ポイント以内となるなど、改善の傾向が<u>見られた</u>。</p> <hr/> <p>全国と比較し、授業以外で勉強する時間が短い傾向にある<u>ことから</u>～</p>	<p>～全国平均を上回る教科はないものの、平均正答率の全国平均との差が全ての教科で2.0ポイント以内となるなど、改善の傾向が<u>見られるが</u>、<u>様々な場面で知識・技能を活用し、思考・判断・表現することなどに課題が見られる</u>。</p> <hr/> <p>全国と比較し、授業以外で勉強する時間が短い傾向にある<u>など</u>、<u>学習習慣に課題が見られることから</u>～</p>
<p>(3) 施策項目5 指標1段目 分析欄 (P49)</p>	<p>管理職等を対象とした研修会で計画の作成・活用を促進した。<u>通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒が増加し、作成率が低下している学校種があるため</u>、<u>向上を図る取組の充実が必要である</u>。</p>	<p>管理職等を対象とした研修会で計画の作成・活用を促進しているが、<u>依然として作成率が低下している学校種があるため</u>、<u>向上を図る取組の充実が必要である</u>。</p>
<p>(4) 施策項目14 指標1段目 分析欄 (P76)</p>	<p>～オンラインミーティングを2回開催した。 <u>一方、社会全体でいじめ加害者への処罰感情が高まっており、加害者に対するいじめを容認する考えもあることが、目標値に至らない要因と考えられる</u>。</p>	<p>～オンラインミーティングを2回開催した。 <u>R5の実績値については、基準値よりも低下しているものの、一定程度の割合で推移しているもの</u>と考える。</p>

<p>(5) 施策項目15 取組の柱 (3) 取組の成果 と課題欄 (P80)</p>	<p>～校内教育支援センターの実践も含めて実践事例を収集し、各学校及び市町村教育委員会に周知して<u>いく。</u></p>	<p>～校内教育支援センターの実践も含めて実践事例を収集し、各学校及び市町村教育委員会に周知して<u>いくとともに、校内教育支援センターを設置する学校の体制の充実が図られるよう、国に対し、財政措置の充実について要望していく。</u></p>
<p>(6) 施策項目16 指標1段目 年度目標値 取組の柱 (3) 点数及び 進捗状況欄 4 総合評価 (P82～84)</p>	<p>R5 <u>2.4</u> R6 <u>2.6</u> R7 <u>2.8</u> 進捗率<u>100.0%</u> <u>4点</u> <u>1点</u> ①～③新たに実施した取組により昨年度に比べ受検者が増えたことから進展は見られるが、<u>目標には達していないため、今後も教員の確保に向けた新たな取組を実施する必要がある。</u></p> <hr/> <p>定量評価 <u>4.0</u> 定性評価 <u>1.0</u> 合計点 <u>5.0</u> 総合評価 <u>順調</u></p>	<p>R5 <u>2.7</u> R6 <u>2.8</u> R7 <u>2.9</u> 進捗率<u>88.9%</u> <u>2点</u> <u>0点</u> ①～③新たに実施した取組により昨年度に比べ受検者が増えたことから進展は見られるが、<u>教員不足の状況は改善されていないため、今後も教員の確保に向けた新たな取組を実施する必要がある。</u></p> <hr/> <p>定量評価 <u>3.0</u> 定性評価 <u>0.8</u> 合計点 <u>3.8</u> 総合評価 <u>概ね順調</u></p>
<p>(7) 施策項目18 5 総合評価 を踏まえた 次年度の取 組 (P90)</p>	<p><u>ヤングケアラーへの支援に当たり、</u> 支援が必要な児童生徒を、市町村の担当部局などの関係機関につないでいくことの重要性について、一層理解を深めることができるよう、</p>	<p><u>様々な家庭の事情により登校できないなどの支援が必要な児童生徒を、市町村の担当部局などの関係機関につないでいくことの重要性について、一層理解を深めることができるよう、～</u></p>